

「中国地域の活断層の長期評価」(第一版)のポイント

(概要1)

地震調査研究推進本部 事務局

1. 活断層の長期評価

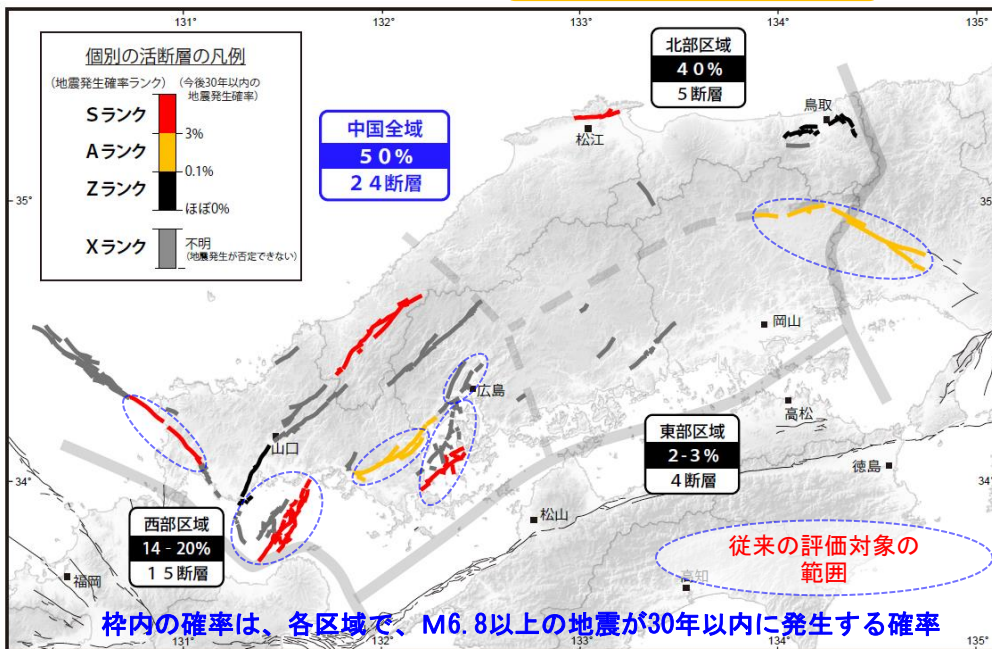
地震調査研究推進本部の下に設置されている地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、地震の規模、発生間隔等の長期予測(長期評価)を実施しています。

従来、陸域の主要な活断層帯(M7以上の地震を想定)を対象として個別に評価を行ってきましたが、M7未満の地震でも被害が生じること、地域によって活断層の特性に共通性があること等から、評価対象を広げ、地域単位で活断層を評価する「地域評価」を行うこととしています。

九州地域(平成25年)、関東地域(平成27年)の地域評価に引き続き、このたび、中国地域を対象として地域評価を実施しました。

3. 評価対象とした活断層

24活断層



2. これまでの活断層の評価と地域評価の主な違い

		従来の活断層評価	新たな地域評価
対象活断層	規模	M7.0以上	M6.8以上
	場所	陸域のみ	陸域・沿岸海域
	範囲	地表に現れている部分のみ	地下の延長部も推定して評価
評価方法		個別に活断層を評価	<ul style="list-style-type: none"> 個別に活断層を評価 地域単位で活断層を評価

個々の活断層の評価だけではなく、地域内で発生する活断層による地震の傾向が見えるようにする。

4. 活断層で発生する地震の規模・確率

区域	M6.8以上の地震が30年以内に発生する確率※		活断層	区域内の最大の地震の規模(マグニチュード)
	各区域	中国全域		
北部	40%	50%	鹿野-吉岡断層 ほか4断層	M7.2程度
東部	2-3%		山崎断層帯 ほか3断層	M7.7程度
西部	14-20%		菊川断層帯 ほか14断層	M7.8-8.2程度 もしくはそれ以上

※ これらの確率は、区域内の最大規模の地震が発生する確率を表すものではない